



事業部門の戦略

グローバル事業部門



執行役専務
グローバル
共同事業部門長

百留 秀宗

執行役専務
グローバル
共同事業部門長

中村 敬一郎

グローバル事業部門実績

	2023年度	前年比*
業務粗利益	13,759億円	+1,597億円
経費	8,093億円	+1,013億円
ベース経費	7,468億円	+582億円
業務純益	6,449億円	+1,212億円
当期純利益	3,182億円	+276億円
ROCE ^{T1}	6.3%	+0.3%
リスクアセット	48.8兆円	+0.1兆円

* 為替影響等調整後ベース

主要戦略

グローバルCIB・S&Tの強化

マルチフランチャイズ戦略での成長実現

中長期的な成長に資するビジネスの創出

事業の多角化・複雑化に連動した基盤の構築

**グローバルCIBやマルチフランチャイズ戦略等の
広範な事業ポートフォリオを強化し、
重点領域への資源投入を進めることで、
成長ドライバーとしてグループを牽引します。
グループ一体で国内外のお客さまに貢献する
グローバルソリューションプロバイダーを目指します。**

2 023年度は想定を上回るインフレ・高金利環境の継続、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の不安定化といった地政学リスクの高まり等、引き続きボラティルな業務環境となりましたが、中期経営計画の1年目としてさらなる成長の土台を築くことができた年でした。具体的には、Jefferiesとの協働エリアの拡大や証券プロダクトの拡充を通じたグローバルCIBビジネスの強化を着実に進めました。加えて、注力領域である米国事業において、2023年7月にデジタルバンク「Jenius Bank」の開業を果たし、リテールビジネスを開始しました。このように、成長領域を取り込み、事業の多角化を着実に進めています。マルチフランチャイズ戦略では、インド郊外・農村部に幅広く拠点を持つノンバンクのSMFG India Credit Companyを完全子会社化する等、対象国においてプラットフォーム強化を進めることができました。

このように成長拡大に注力する一方で、ポートフォリオ見直しの一環として、米国の貨車リース会社SMBC Rail Servicesやベトナムの大手商業銀行Eximbank株式の売却を行う等、質の伴った成長に向けたリソース捻出の取組も着実に進めています。こうした取組を通じて、2023年度は増収増益・ROCE1伸長を達成するとともに、今後の成長につながる基盤整備も着実に進捗し、手応えを感じています。

2024年度は当初計画を上回る成長を実現するため、継続的に重点領域への資源投入を進めるとともに、業務環境の変化に応じて、機動的に事業ポートフォリオおよびビジネスモデルの見直しを進めていきます。また、事業規模の拡大に伴って、グローバルな社会課題の解決に対するステークホルダーからの多様な期待が高まっており、環境問題や貧困・格差、DE&Iや人権問題等について、グループベースで知見を蓄積し、連携して活用することで、社会へのインパクトの極大化を目指します。

グローバル事業部門

グローバルCIBの強化

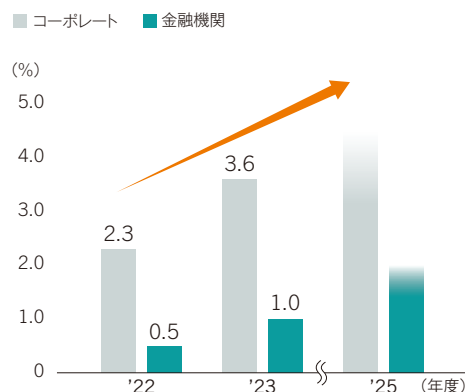
グローバルソリューションプロバイダーへの進化を加速すべく、カバレッジ陣容をフル活用した複合的なソリューション提供を強化するとともに、グループ・グローバルでの連携を拡大します。

柱のひとつであるJefferiesとの提携では、2023年度に、協働領域をM&Aアドバイザリー業務およびエクイティ、デットキャピタルマーケット業務に拡大しました。また、対象地域も米国から欧州・カナダへと拡大する等、提携関係は着実に深化しており、今後も協働対象地域の拡大に努めていきます。

加えて、プライマリ・セカンダリ連携の加速やプロダクト強化を通じたビジネス拡大にも継続して注力します。2023年度は社債引受が好調に推移し、ヤンキー債、サムライ債でのマンドート獲得増加に加えて、米国BDC(Business Development Company、未上場の中堅・新興企業等に対して資金供給を行う投資会社)市場でのリーグテーブルトップを維持しました。

環境・気候変動の分野においても、ソリューションを拡充しています。炭素強度の高いセクターのお客さまを中心にエンゲージメントを重ね、脱炭素への移行に加え、新エネルギー・セクターへの取組も推進し、サステナビリティの分野を牽引していきます。

米国IG／DCM発行シェア

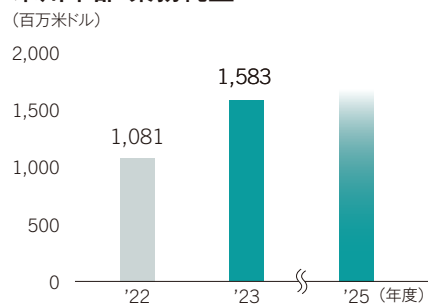


米国事業の拡大・深化

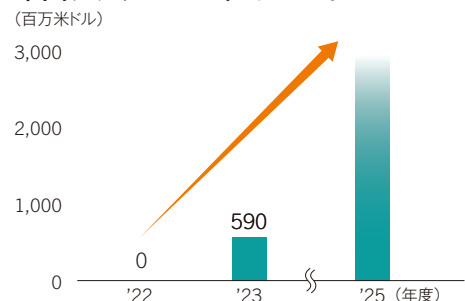
世界最大かつ安定的な米国市場に一段とグループ資源を集中させ、グループの成長牽引を目指します。

ホールセールビジネスについてはグローバルCIB・S&Tビジネス拡大に継続的に取り組む一方で、中長期的な成長実現のためリテールビジネスに本格参入しました。2023年7月に開業したデジタルバンク「Jenius Bank」では、米国居住者向けに貯蓄性預金やパーソナルローン等の提供を開始し、立ち上げから1年足らずで、預金残高は10億米ドル、ローン残高は7億米ドルを突破しました。今後も顧客のあらゆるライフステージをサポートできるよう、商品を増やしながらビジネスを拡大していく方針です。迅速かつ柔軟に変更を加えられる最先端のシステムを導入し、顧客分析から得られるフィードバックを商品・サービスに素早く反映させることで、伝統的な銀行サービスとの差別化を図っていきます。

米州本部 業務純益



米国デジタルバンク アセット



マルチフランチャイズ戦略における成長の実現

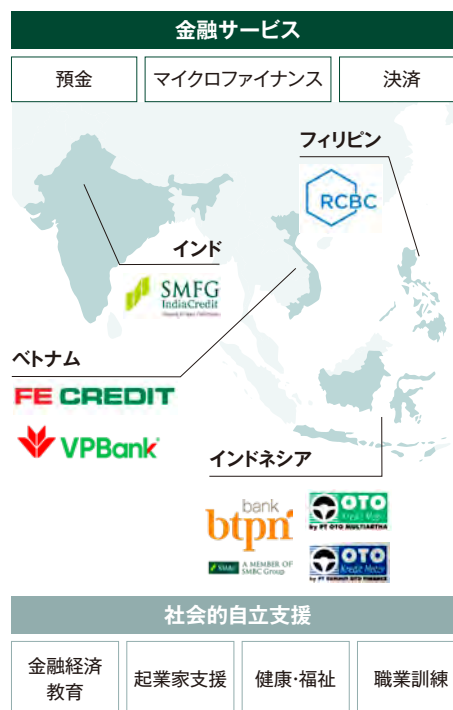
成長著しいアジアの4カ国、インド・インドネシア・フィリピン・ベトナムにおいて、「第2、第3のSMBCグループ」を創るという戦略の下、各国の金融機関への出資・提携を進め、マルチフランチャイズのプラットフォームを構築してきました。

今後は各出資先の資本増強・ガバナンス高度化支援を通じて事業拡大をサポートしていくほか、SMBCグループ・出資先間での知見共有・ビジネス協働によりシナジーを創出し、各国でトップティアの金融機関を目指します。

また、社会課題の解決に向けては、インドやインドネシアで、マイクロファイナンスの提供を通じた貧困・格差の解消に取り組んでおり、中期経営計画では2カ国合算でマイクロファイナンスの提供者数をさらに80万人増やすことを目標としています。加えて、社会全体の貧困・格差解消に向け、対象をSMBCグループのお客さまに限定しない金融基礎教育や中小企業オーナー向けセミナー等の社会貢献プログラムを展開しています。



マルチフランチャイズ戦略についてはP.090をご参照ください。

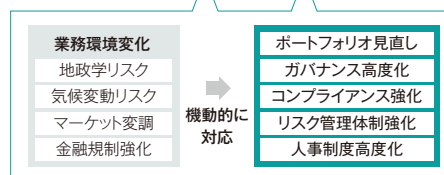
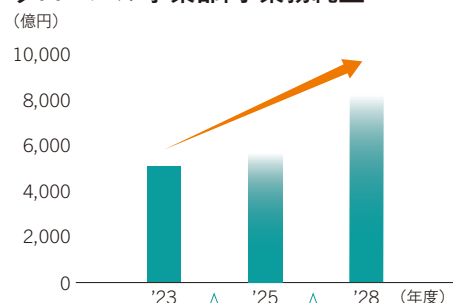


経営基盤の整備

地政学リスクや気候変動リスク、マーケット変動リスクの高まりや、各種規制の高度化が進む中、それらの予兆を捉えて機動的に対応する重要性がより一層高まっており、海外ビジネスの拡大と両輪で経営基盤のさらなる強化を進めます。

具体的には、2023年10月にワシントンD.C.に駐在員事務所を開設しました。ここでは、金融当局や政府関係機関を含む幅広いステークホルダーとの関係構築を担い、情報収集・発信力の強化を進めます。また、業務環境の変化に対して機動的・効率的な資源投入を加速すべく、事業セグメントごとの収益・採算指標の管理高度化や明確化を可能とするデータ基盤・ビジネスインフラを整備します。さらには、多様な人材の専門性を活用し、多角化・複雑化する事業の成長を支えるガバナンス・コンプライアンス強化、リスク管理の高度化を図っていきます。海外現地従業員の積極登用を継続していくほか、ダイバーシティの観点で、グローバルに女性マネジメント層を増やすための「Gender KPI」を設定する等、グローバル人事制度の高度化も進めています。

グローバル事業部門 業務純益*



*1米ドル=120円で換算